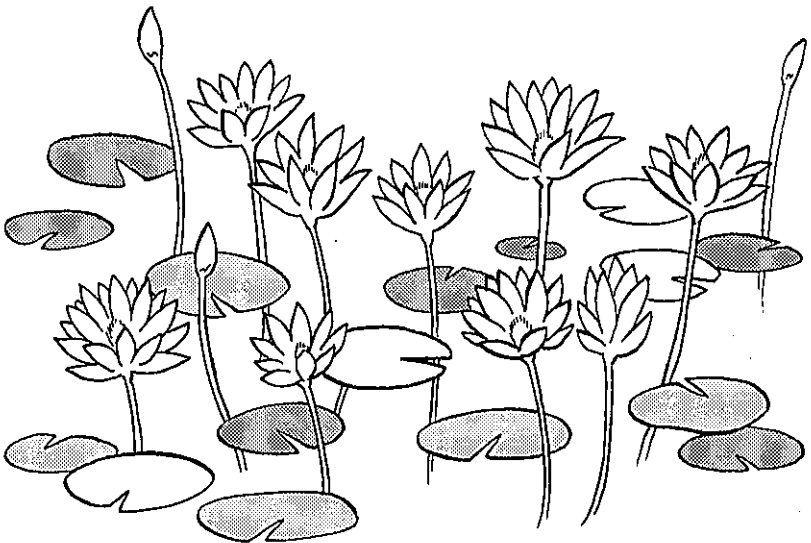
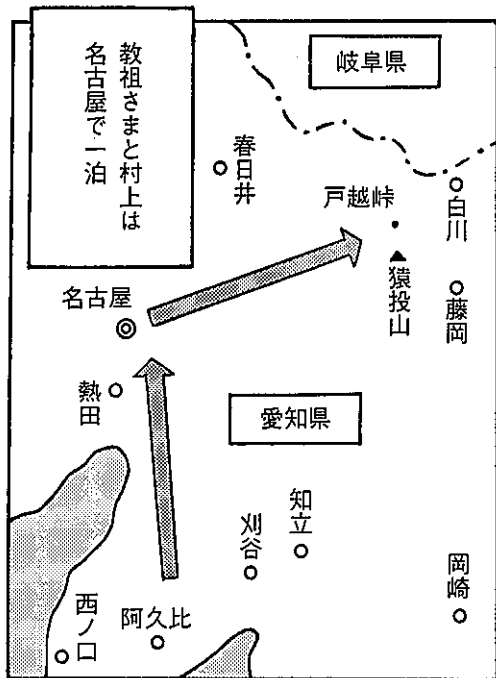


第四章 華の笑み——白川時代





翌日瀬戸を  
經由して  
戸越峠で  
夕暮れを迎えた



教祖さまと村には  
名古屋で一泊

岐阜県

春日井

戸越峠

白川

藤岡

猿投山

名古屋

愛知県

熱田

知立

刈谷

岡崎

西ノ口

阿久比

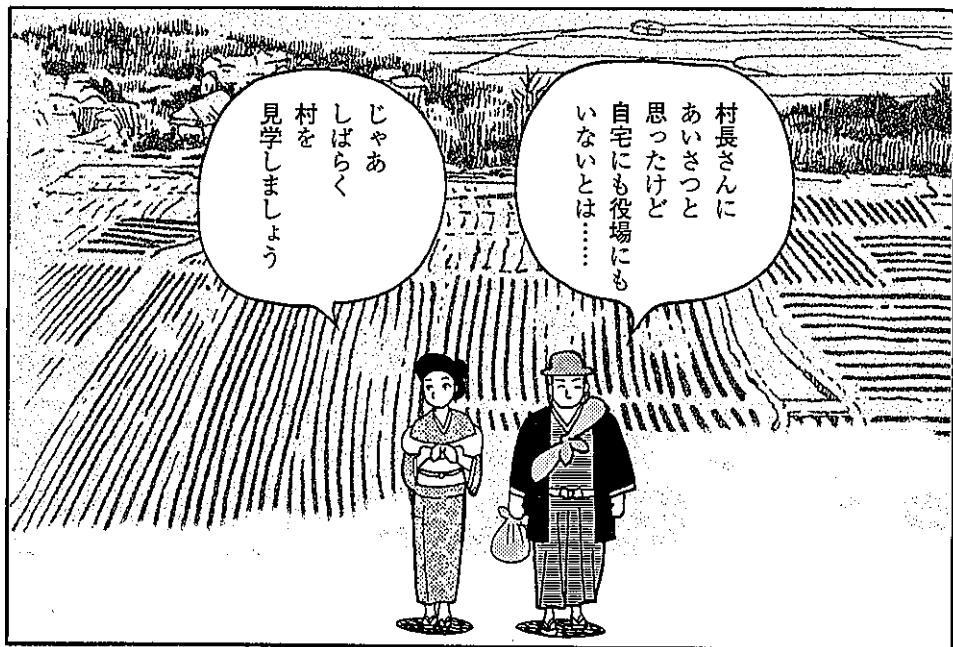


一月九日  
ふたりは  
藤岡村に到着した



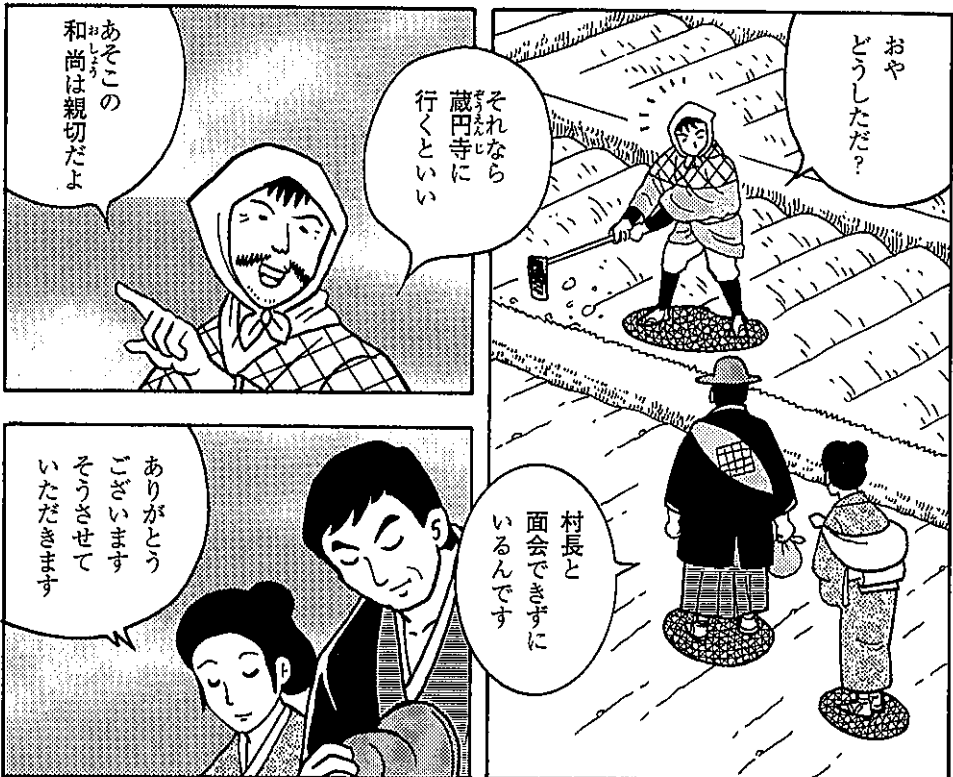
難渋しつづ  
夜道を進み  
山間の茶店で  
一泊

あそこに見える  
茶店で  
泊めて  
もらいましょう



村長さんに  
あいさつと  
思ったけど  
自宅にも役場にも  
いないとは……

じゃあ  
しばらく  
村を  
見学しましょう



おや  
どうしただ？

それなら  
蔵田寺に  
行くといひ

あそこ  
和尚は親切だよ

村長と  
面会できずに  
いるんです

ありがとう  
ございます  
そうさせて  
いただきます

お母さまのもとを  
離れて  
早くも二か月が  
すぎました

蔵<sup>ぞう</sup>円<sup>えん</sup>寺<sup>じ</sup>の  
ご住職には  
たいへん  
お世話に  
なりました

ご住職のすすめで  
ご白川に  
とどまること  
にしました  
白川村も無医村で  
ここで開業  
してほしいとの  
おことばを  
いただいたのです

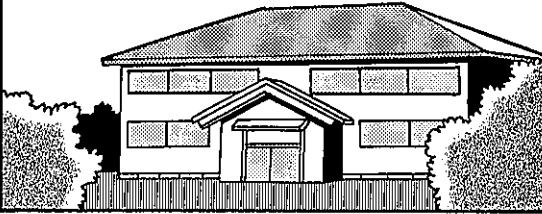


施設<sup>しせつ</sup>や  
お給金<sup>おぎん</sup>のことなど  
さまざまに便宜<sup>べんい</sup>を  
はかっていただけ  
順調<sup>じゆんてう</sup>に病院を  
開くことが  
できました

この白川だけ  
ではなく

一里離れた  
柿野村への  
出張も  
依頼され

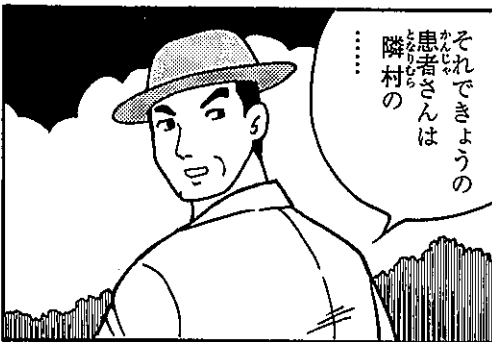
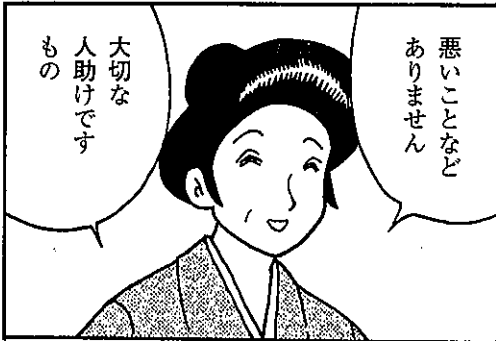
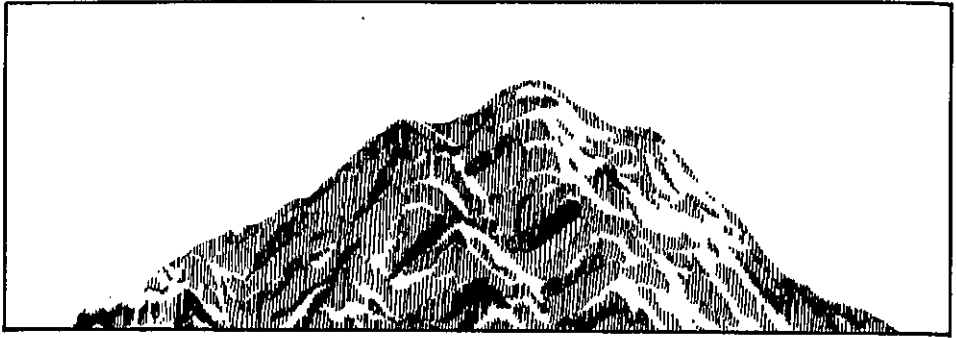
村上先生  
ともども  
いそがしい  
毎日を送って  
おります

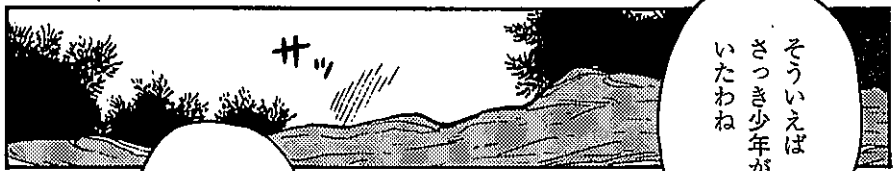
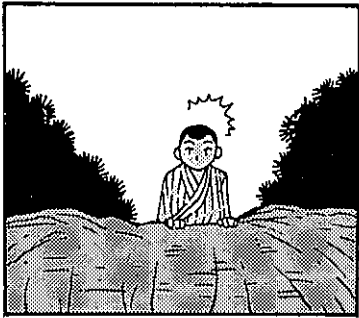
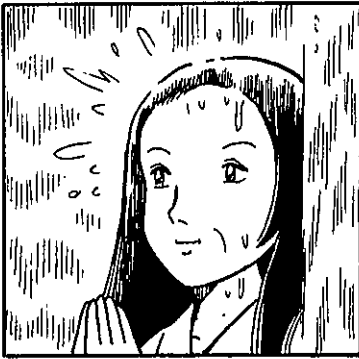


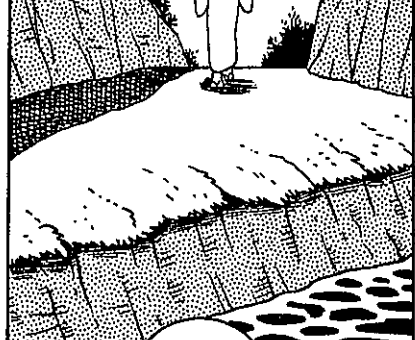
さてお母さまが  
案じてらっしゃる  
水行<sup>みづぎ</sup>についてですが  
無事に  
つづけております

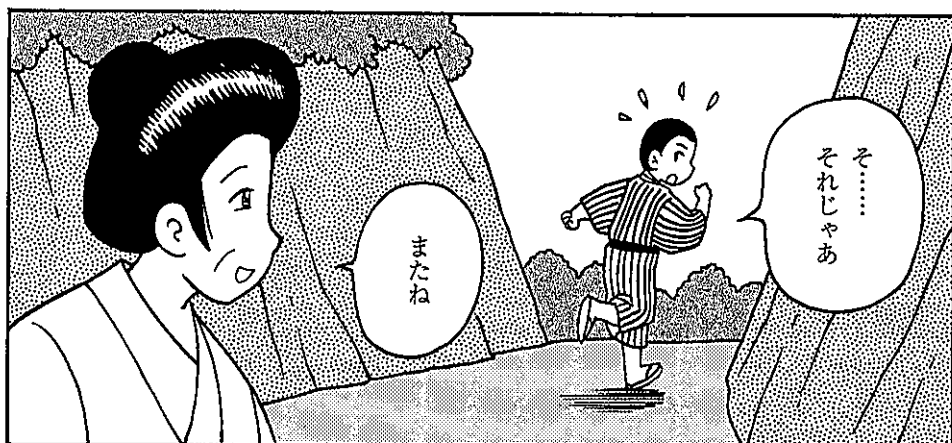
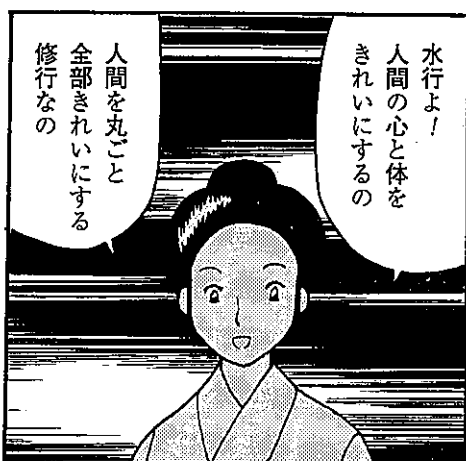
こちらは  
阿久比<sup>あきひ</sup>に比べると  
少し冷え込むものの  
風邪<sup>かぜ</sup>ひとつひかずに  
暮らしております  
どうぞご心配なく













わたしが  
精神療法を  
施します



村上先生が  
医薬療法を施し

その後  
お母さまは  
いかがお過ごし  
でしょうか？

こちらは  
患者さんが日ごとに  
増えてまいりまして  
近頃では看護婦が必要では  
と村上先生と話し合っ  
ております

少しでもみなさまの  
お役に立てればと  
充実した毎日を  
送っております

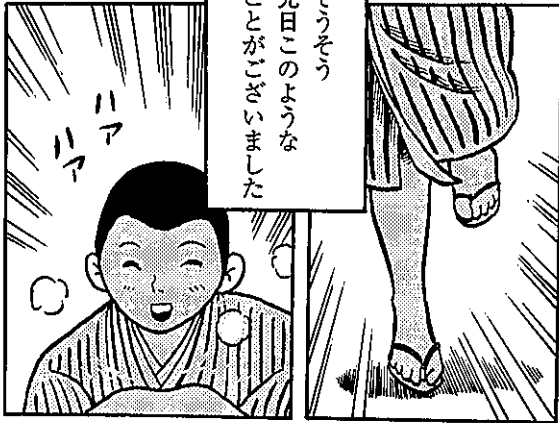


さて  
お母さまは  
わたしの断食に  
ついて  
ご心配のご様子  
ですが  
それには  
およびません

深山<sup>とんざん</sup>幽谷<sup>ゆうこ</sup>の仙人  
とまではまいりませんが  
食べ物<sup>たべもの</sup>を口にしないで  
この土地<sup>このち</sup>のいつも新鮮<sup>しんせん</sup>で  
さわやかな空気を  
吸い込むだけで  
満ち足りた  
気分になります



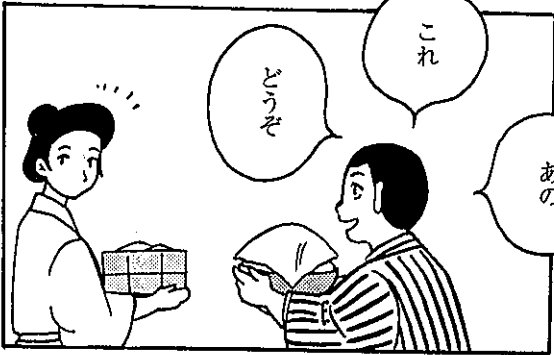
そうそう  
先日このような  
ことがございました



あの

これ

どうぞ



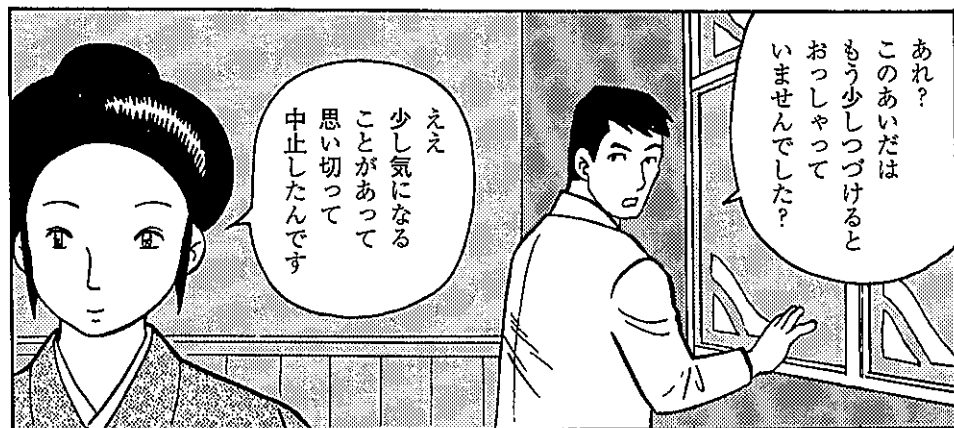
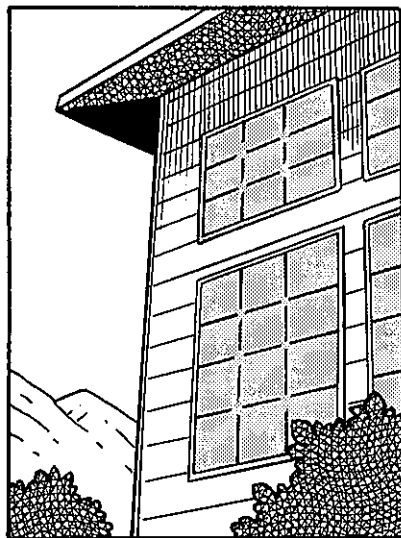
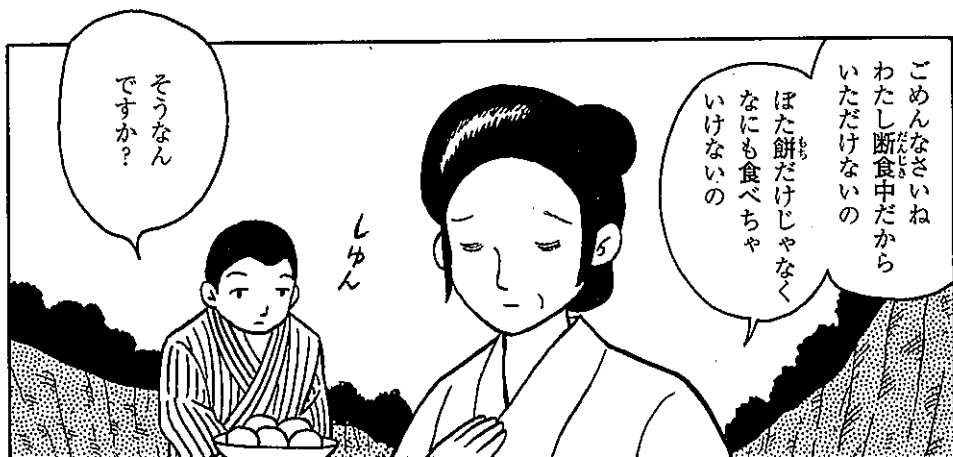
もしよろしかったら  
いまここで召しあがって  
いただけませんか？  
ほくが館<sup>かん</sup>をこねて  
つくったんです



ほた餅<sup>もち</sup>です  
家でこしらえた  
ばかりなんです

まあ  
ありがたいわ  
うれしいわ





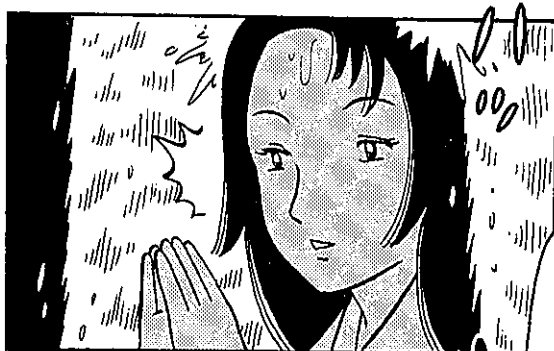


もう何十回と  
やっつけてきた  
断食行なのに

このまま  
つづけていて  
いいものか  
わからなく  
なっただんです

水行は  
つづける  
つもりです

……  
そうですか



南無妙法蓮華經

南無妙法蓮華經



だれかの  
声でした  
ようだけど

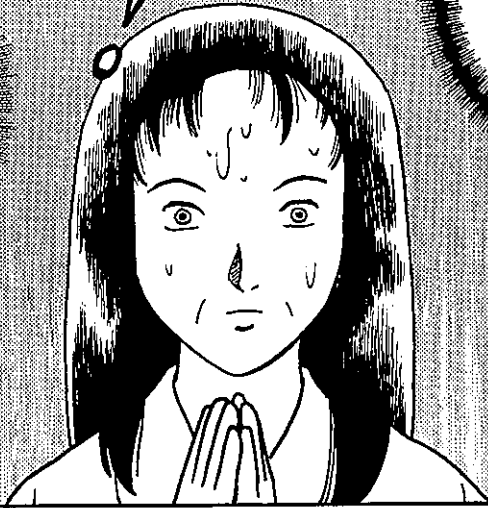
だれもないわ

水行も断食も  
やめなさい！



もうきょう  
かぎり  
おやめなさい!!

水行や断食をして  
どのような悟りが  
かなうというのですか



その後  
気がつく  
わたしは診療所の  
真っ暗な押入れの  
なかにいました

そこは  
わたしが  
考えごとをする  
場所でした



さきほどの声は  
諸天の仰せに  
ちがいない……

でも  
どのような  
意味なの  
だろう……

あつ

わたしの体が  
虚空に浮かび  
あがってる!!



そしてなに？  
この足もとにうごめく  
鬼・餓鬼・野獣の  
たぐいは……

これは  
六道輪廻の  
ありさまに  
ちがいない



わかり  
ました!!

わかったという  
ことだけは  
完璧に  
理解できました

しかしすぐには  
ことばに  
なりませんでした



よく考えてみると  
水行は  
魚のまねごとでしか  
ありません

だれも  
断食だって同じこと  
半年 食べて  
半年 絶食している  
蛇や蛙の  
まねごとのような  
ものです

でも彼らは  
好んで  
そうしている  
わけではない

魚は水から  
出たくても  
出られません

蛇や蛙も  
自然に半年の断食を  
させられています  
それに比べ……

わたしたち人間だけが  
ありがたいことに  
その気になれば  
断食や水行を  
いつでもやめられる

地獄の亡者や餓鬼とは  
自分でやめたくても  
やめられない者たちの  
ことなのだわ





わたしはかねてから  
法華經の  
「一念三千」について  
疑問を抱いて  
いました

教学としての  
理屈は  
わかっていても

さらに  
深く知りたいと  
何人も僧侶の  
尋ねてみたが

ありきたりの  
答えしか  
返ってこなかった



それがいまや  
氷解しました！  
十界互具百界千如の  
すみずみまで  
掌をさすように  
理解することが  
できたのです！！

お母さまが  
お風邪を召されたと  
うかがい  
心配しております

季節の変わり目が  
お体に災いしたの  
かもしれません

早く治って  
いただこうと  
毎日仏さまに  
病氣平癒を  
祈願申しあげて  
おります

もう  
お聞きおよび  
かもしれません  
ある方に  
お願いして  
名古屋市内に  
一軒の家を  
さがして  
いただいで  
おります

機は満ちて  
まいりました  
いつぞやの便りに  
したためました  
ように

昨年 数十万匹もの  
赤トンボが  
西北から東北へ  
飛び去るのを見ました

これは  
遠く欧州で  
戦争が起こり  
ついには全世界が  
巻き込まれる  
大戦争に  
なるのではとの  
予感を抱きましたが  
不幸にも  
そのとおりの  
事態になって  
しまいました

このような時代にこそ  
妙法を広めて  
まいらねばなりません  
多くの人に  
集まっていたくために  
ぜひとも広い屋敷が  
必要です

ただ新たにひとつ  
問題が生じて  
おります

これまで行動をとるに  
してまいりました  
村上先生が反対  
なさっているのです

白川から  
引きあげるなど  
わたしには  
納得できません!!

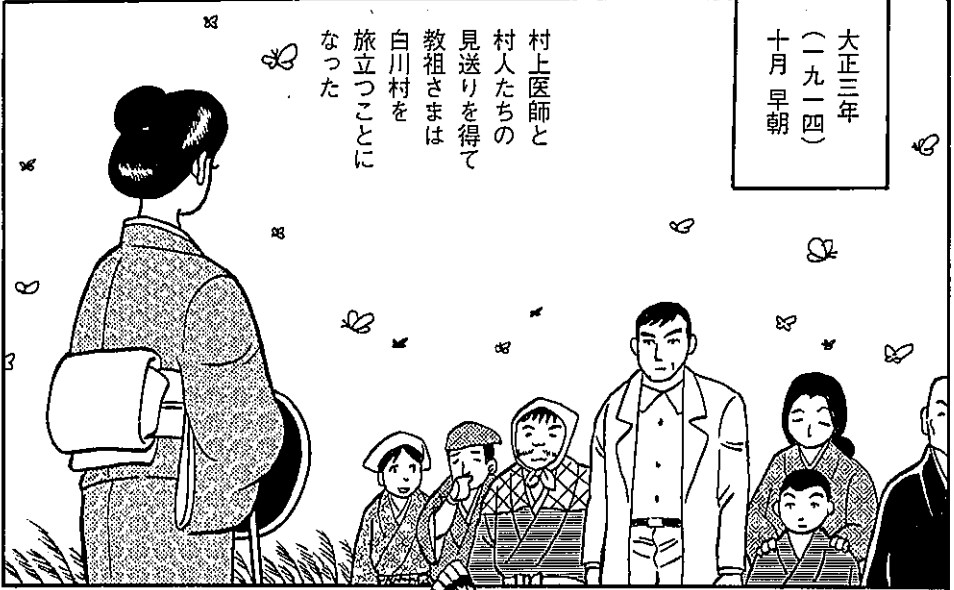
四年あまりの  
月日をかけて  
築きあげてきた  
村の人びととの  
信頼関係が  
そこなわれてしまう  
じゃないですか

……



大正三年  
(一九一四)  
十月早朝

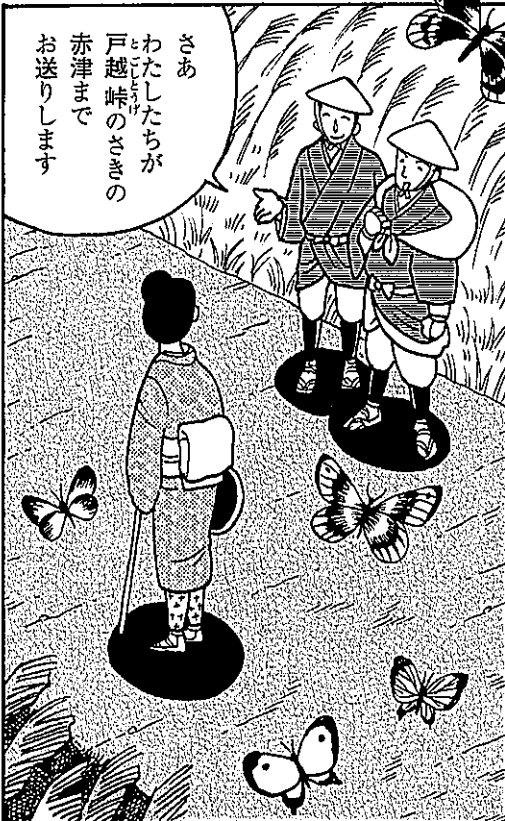
村上医師と  
村人たちの  
見送りを得て  
教祖さまは  
白川村を  
旅立つことにな  
った



みなさん  
お世話に  
なりました



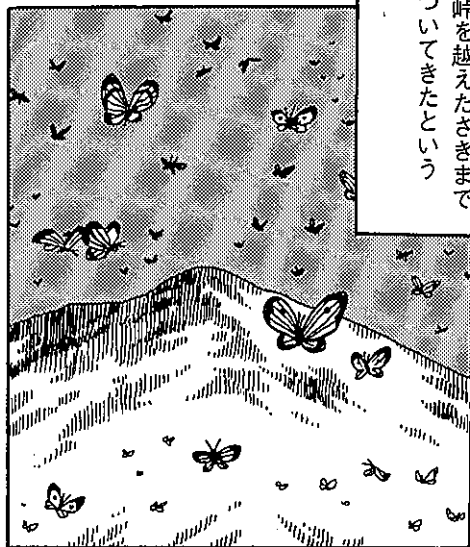
さあ  
わたしたちが  
戸越峠のさきの  
赤津まで  
お送りします



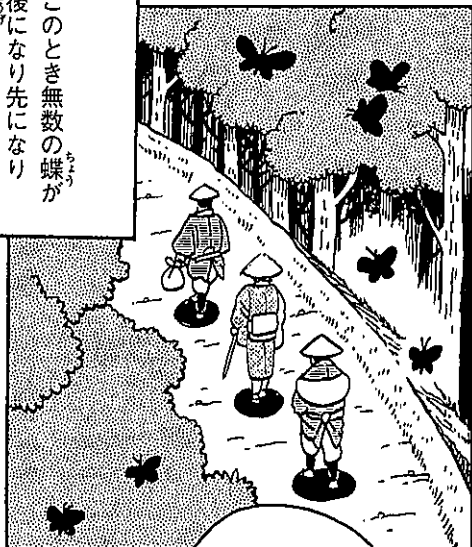
こちらこそ  
お世話に  
なりました

さびしく  
なりますが  
お元気で





このとき無数の蝶が  
後になり先になり  
峠を越えたさきまで  
ついてきたという



それにしても  
この季節  
はずれの  
蝶の大群は  
いったい……

きっと  
杉山先生との  
別れを惜しんで  
いるんだよ